

## 製品安全データシート

作成 2011年01月17日  
改訂 2011年07月19日

## 1. 製品及び会社情報

製品名 : Gene RED PCR Mix  
製品コード : 314-07471、310-07473、318-07474  
会社名 : 株式会社ニッポンジーン  
住所 : 富山県富山市問屋町 1-8-7  
担当部門 : 研究試薬部 品質管理課  
電話番号 : 076-451-6548  
FAX 番号 : 076-451-6547

## 2. 危険有害性の要約

Gene RED PCR Mix (ホルムアミド) について記載

GHS 分類 : 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分 2B

注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : 眼刺激

注意書き【応急措置】 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して  
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。  
取り扱い後はよく手を洗うこと。

上記で記載が無い危険有害性は対象外又は分類できない

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物区別	混合物	
化学名または一般名	ホルムアミド	アジ化ナトリウム
濃度	4%	0.02%
化学特性(化学式)	CH3NO	NaN3
CAS 番号	75-12-7	26628-22-8
官報公示整理番号	特定されていない	化審法 : 1-482
危険有害成分	ホルムアミド	アジ化ナトリウム

アジ化ナトリウムは、0.1%未満のためカットオフ

## 4. 応急措置

吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合 : 多量の水と石鹸で洗い流す。炎症を生じた時は医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合 : 直ちに多量の水で 15 分以上洗い流す。異常があれば、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

## 5. 火災時の措置

消火剤 : 粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂、霧状水

火災時の特有危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有害なガスを発生するため、消火の際には煙を吸い込まない  
ように適切な保護具を着用する。

特有の消火方法 : 火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火活動は、可能な限り風  
上から行う。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適  
切な処置をする。

消火を行う者の保護 : 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を  
着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 作業の際には適切な保護具を着用する。こぼれた場所はすべりやすいために注意する。
環境に対する注意事項	: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。 汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
回収、中和	: 漏出した液は、ウエス、雑巾で出来るだけ回収し、こぼした所を完全に拭きとる。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策	: 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	: 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項	: 漏れ、溢れ、飛散などしないようにする。 使用後は容器を密閉する。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の粗暴な扱いをしない。 適切な保護具を着用する。

### 保管

適切な保管条件	: -20℃にて保管する。
技術的対策	: 特になし。
混触禁止物質	: データなし。
安全な容器包装材料	: ポリエチレン、ポリプロピレン

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	: 蒸気やミストが発生する場合は、発生源を密閉し、局所排気装置を設置する。
管理濃度 作業環境評価基準	: 設定されていない。
許容濃度 ACGIH (TLV)	: データなし。
日本産業衛生学会	: 設定されていない。

### 保護具

呼吸器の保護具	: 保護マスク
手の保護具	: 保護手袋
目の保護具	: 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣

## 9. 物理的及び化学的性質

形状、色	: 赤色透明の液体
臭い	: 無臭
pH	: データなし。
融点	: データなし。
沸点(初留点)	: データなし。
引火点	: データなし。
自然発火温度	: データなし。
爆発範囲(上限・下限)	: データなし。
蒸気圧	: データなし。
比重	: データなし。
密度	: データなし。
溶媒に対する溶解性	: 水と混合する。

## 10. 安定性及び反応性

安定性	: データなし。
危険有害反応可能性	: データなし。

---

避けるべき条件	: 日光、熱
混触禁止物質	: データなし。
危険有害な分解生成物	: データなし。

---

## 11. 有害性情報

Gene RED PCR Mix (ホルムアミド) について記載

急性毒性	: 経口: ラット LD <sub>50</sub> : 約 6000mg/kg (ACGIH(7th, 2001)) に基づき、区分外とした。 : 経皮: ウサギ LD <sub>50</sub> : 6000mg/kg (ACGIH(7th, 2001)) に基づき、区分外とした。 : 吸入: データなし。
皮膚腐食性・刺激性	: モルモットを用いた試験において軽度な一過性の皮膚刺激性が認められたとの記述 (ACGIH(7th, 2001)) から区分 3 であるが、含有量が 4% のため、区分外とする。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: ウサギの眼に適用した試験においてごく軽度な一過性の刺激作用が認められたとの記述 (ACGIH(7th, 2001)) から、区分 2B とした。
呼吸器感受性	: データなし。
皮膚感受性	: モルモットを用いた試験において皮膚感受性は認められなかったとの記述 (ACGIH(7th, 2001)) があるが、試験方法が不明であり、区分外とするには十分なデータではないことから、分類できないとした。
生殖細胞変異原性	: 体細胞を用いる <i>in vivo</i> 変異原性試験であるマウス赤血球を用いた小核試験で陰性の結果がある (NTP DB, 2005) ことから、区分外とした。
発がん性	: データなし。
生殖毒性	: 妊娠ラット及びウサギを用いた経口投与試験において親動物に一般毒性が認められる用量でも明確な生殖毒性が認められなかったとの記述 (NTP DB, 2005) から、区分外とした。また、親動物の一般毒性に関する記述はないものの妊娠マウス及びラットを用いた経皮投与試験において生殖毒性は認められなかったとの記述 (ACGIH(7th, 2001)) があり、雌雄マウスを用いた経口投与繁殖性試験においても明確な生殖毒性は認められなかった。(NTP DB, 2005)
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	: ラットを用いたミスト吸入暴露試験において区分 2 のガイダンス値範囲を超える高濃度でも毒性症状が認められなかったとの記述 (ACGIH(7th, 2001)) があるが、他にデータはなく、区分外とするにはデータ不足であることから分類できないとした。
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	: ラットを用いた 90 日間経皮投与試験において区分 2 のガイダンス値範囲の用量では毒性作用が認められなかったとの記述 (ACGIH(7th, 2001)) があるが、他には Priority1 に有害性を明確に否定するデータがないことから、区分外とするにはデータ不足であり、分類できないとした。
吸引性呼吸器有害性	: データなし。

---

## 12. 環境影響情報

生態毒性	: 魚類 (ヒメダカ) の 96 時間 LC <sub>50</sub> > 100mg/L (環境省生態影響試験, 1998) から、区分外とした。
残留性・分解性	: データなし
生態蓄積性	: 水溶解度=1.00×10 <sup>6</sup> mg/L (PHYSPROP Database (2005)) 難水溶性でなく、急性毒性が低いことから、水生環境慢性有害性は区分外とした。

---

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 焼却法 少量ずつオガクズ等の可燃物に吸収させて、開放型の焼却炉で焼却。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

---

## 14. 輸送上の注意

国連番号	: 非該当
国連分類	: 非該当
海洋汚染物質	: 非該当
注意事項	: 運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にこころう。

---

---

## 15. 適用法令

Gene RED PCR Mix (ホルムアミド) について記載

消防法 : 非該当

毒物及び劇物取締法 : 非該当

労働安全衛生法 : 法第 57 条の 2 (令第 18 条の 2) 名称等を通知すべき有害物 No.547

化学物質管理促進法 (PRTR 法) : 非該当

---

## 16. その他の情報

- ・引用 化学物質総合情報提供システム Chemical Risk Information Platform (CHRIP)  
[http://www.safe.nite.go.jp/japan/sougou/view/SystemTop\\_jp.faces](http://www.safe.nite.go.jp/japan/sougou/view/SystemTop_jp.faces)  
GHS モデル MSDS 情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP  
[http://www.jaish.gr.jp/anzen/gmsds/gmsds\\_index.html](http://www.jaish.gr.jp/anzen/gmsds/gmsds_index.html)  
原料試薬供給先から提供された MSDS 等
- 

\*危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。

\*本データシートは情報を提供するものであって、記載内容を保証するものではありません。